

令和6年度第2回 清瀬市災害時の女性と要配慮者等の支援のあり方委員会 会議録（要旨）

1 開催日時

令和6年11月26日（火）15時00分から16時30分まで

2 場所

清瀬けやきホール 第4会議室

3 出席者

- NPO法人 首都圏防災士連絡会
- NPO法人 子育てネットワーク・ピッコロ
- NPO法人 ウイズアイ
- 市長が必要と認める者（公募により選出）

4 傍聴者

1名

5 事務局

総務部防災防犯課

6 会議内容

(1) 開会

(2) 委員長のあいさつ

委員長による挨拶を行った。

(3) 報告

第1回委員会で各委員に依頼して実施した、女性、要配慮者等が避難所生活を送るうえで抱える問題点等を回答するアンケートの集計結果について、事務局より説明を行った。

(4) 議題

アンケートの集計結果を踏まえ、避難所生活における問題点と、その対策として必要な備蓄品について、団体ごとに意見を募った。

【委員意見】

問題点全般

- 避難所で生活する人が安心して過ごせる「環境」を補うための「備蓄品」を充足させてほしい。
- 避難所生活は時期を選べない。寒暖や感染予防が心配であるため、感染予防対策にも積極的な配慮が必要。
- 学校の避難所には給食の設備があるので、それを活用できるのではないか。備蓄しているものを利用するほか、農家の方と協力して畑の野菜を使わせてもらうのも災害時の手段となる。
- トイレ備品の取扱い要領の習得は大切。水が出ない場合のトイレについて、実際に組み立ててみる、穴を掘ってみる、ビニール袋のあとの始末など体験の場の提供をお願いしたい。
- 市内中学校の校長との会話の中で、「子どもが登校しているときは難しいが、要配慮者用に教室を開放してもよい。」と話をしてくれた。プライベートスペースの確保の仕方として、各学校に教室の開放を求めてもいいのではないか。
- 市として在宅避難を推奨するのであれば、在宅の人たちに対する対応も考えなければならない。それらの人たち、特に備蓄品を取りに行けない世帯に対してどのように配布していくのか体制の構築が急務。
- 夏場の停電時を想定し、後付けの網戸を用意するとよいのではないか。

「女性・妊産婦」が抱える問題点

- 乳幼児連れが安心して避難できる場所を提供する必要がある。
購入した備蓄品は頭数で割り振るのではなく、その避難所ごとに地域特性（若者世帯が多い。高齢者が多いなど。）を反映した備蓄品を配備すると、安心して避難できるのではないか。
- 液体ミルクの使用率が上がっている。赤ちゃんにも好き好みがあるため、粉ミルクも含め、1メーカーだけに絞らない方がよい。
- 哺乳瓶に移し替えて飲ませなくても、液体ミルクに授乳口を付けてあげる商品があるので、備蓄品として備えてほしい。
- ナプキンの配布方法について「ご自由にお取りくださいという貼り紙をする、女性が配る、複数個配る」など渡す側の配慮が必要。

「子ども」が抱える問題点

- 子どもが仮設トイレ利用時、落ちてしまうといった事例がある。補助便座やおまるの購入も考慮してほしい。

「高齢者」が抱える問題点

- 災害関連死を減らすためには、薬、食事の提供が重要。能登半島地震では、おかゆがとても求められた。高齢者だけではなく具合が悪くなった人や乳幼児の離乳食としても有用であった。一般食だけではない備蓄の検討をお願いしたい。

「障がいのある方」が抱える問題点

- 障害がある方の家族の中には、設備が整っているかわからないため、「避難所に行かない」と決めている世帯も存在する。
- 身体的障がいがある方への対応について、バリアフリー対応の避難所であるか否かを情報発信してほしい。避難所一覧にて、その旨記号を付すなど。
- 車椅子の避難者のために、選挙の際に設置される後付けのスロープを災害時でも出せるようにしてほしい。購入しなくても協定等で貸し出ししてもらおうようにしてほしい。入口だけでなく、仮設トイレに入るにも段差がある。移動式のスロープは重要。

「外国人」が抱える問題点

- 外国人の方については、コミュニケーションが大事である。外国人との接触が多い地域性などもあるため、そういった地域では特にお祈りの時間・場所、また宗教上の食事提供は必須である。受付時、避難者カード等で把握できるとよい。

「LGBTQ関連」の問題点

- LGBTQ については、心配ごと＝誹謗中傷（今後の生活も含めて考えてしまう）であり、避難所生活時だけでなく、避難所生活が終わってからも、まわりから変な目で見られだす。生活しづらくなってしまった問題点がある。
- 体と心が一致しない場合＝男性の風貌で生理用品を取りに行くと、不審者？と思われてしまう事例もある。それを利用しようとする犯罪者に対してはどのようにしていくか？という課題がある。

備蓄品の整備・購入について

- 細々したものを保管・管理することも大変なので、規模が大きいもの、高額なものを市にお願いするのが良いのではないかと。
地域の自治会や自主防災組織でも備蓄品を揃えられる。それを促すためには行政から備蓄の依頼や補助金の提供などについて情報提供すること重要である。
- 全ての要望に応じた備蓄品を備えることは現実的ではないため、市の備蓄品についてや、個々に必要なものは個々で用意する必要性について等をホームページや市報等で積極的に情報発信していくことが必要。

(5) その他

- 提言書に作成に関して、各委員に承諾を取った。
- 会議録の公開について各委員に承諾を取った。
- 今後のスケジュールについて確認を行い、閉会となった。

(6) 閉会